ほうれんそうの分業化システム構築と経営の安定

ねらい

ほうれんそうは，１１月から４月までの収穫期に，安定的に出荷し続けることが経営面での最重要ポイントです。しかし，近年，極端な降雨や高温等により，継続出荷が困難となる年が多くなっています。さらに，手間のかかる調製作業を家族労力でまかなっていることが多く，１日の出荷量が限られています。徳島農業支援センター管内の露地ほうれんそうは束出荷ですが，全国的には袋詰め出荷が主流になってきており，農産物の消費者志向も量より質，そして袋詰め商品へと変わってきています。

そこで，広域的な連携のもと，虫害や気象変動に対応した栽培技術を確立・普及すると共に，手間のかかる調製作業の分業化を支援し，柔軟な出荷体制を確立することで，経営を安定させ，栽培面積の維持や新規栽培者の増加を図ります。

活動地域・対象

地域：徳島市，石井町・対象：ほうれんそう生産者

普及活動の目標

ほうれんそう調製作業の分業化システム構築と生産安定

目標に向けた活動概要

１　ほうれんそう調製作業の分業化システムの構築

＜令和２年度＞

これまで，作業時間の大半を占める「調製作業」を削減するための検討を重ね，福祉サービス事業所への作業委託を進めていきました。ＪＡとの協議の結果，農業技術を持った指導員がおり，事業所利用者も農作業に慣れているＡ型事業所へ委託することとしました。その中で作業工程や規格の見直しを行った結果，根切りと洗浄の工程を削除し，全自動袋詰め機での袋詰め出荷を委託しました。

＜令和３年度＞

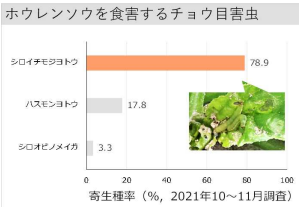
名西郡農業協同組合の一部の生産者に対し，「調製作業」のＡ型事業所への作業委託を支援したほか，調製作業が少しでもしやすいように，品質の均一化および生産安定の一環として播種作業も作業委託することを支援しました。

＜令和４年度＞

これまでの「調製作業」の作業委託は，「露地ほうれんそう」を対象に進めてきましたが，「露地ほうれんそう」においては，取引価格が安価安定し，雇用労賃も上昇している昨今では，作業委託費用を捻出するのが困難なことから，比較的高単価安定している「ハウスほうれそう」を対象とすることとし，生産者の作業負担軽減を図りました。しかしながら，栽培面積の維持や新規栽培者の増加というところまではつながりませんでした。

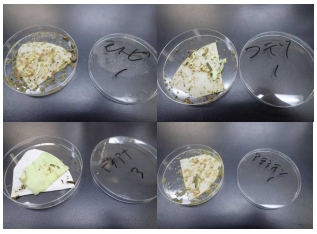
２　ほうれんそうの生産安定

＜令和２年度＞



管内のほうれんそう産地において，昨今，秋まき年内どりの作型でチョウ目害虫の被害が目立ち，歩留まりの悪化が認められるようになってきたことから，ほうれんそうを加害するチョウ目害虫の種類を調査しました。その結果，寄生しているチョウ目害虫のうちほとんどが「シロイチモジヨトウ」であることが判明しました。

＜令和３年度＞



ほうれんそうの主要産地（徳島市不動地区および石井町石井地区）の個体群を用いて薬剤感受性検定を実施したところ，ほうれんそうに登録のある薬剤のうち，「スピネトラム水和剤」と「レピメクチン乳剤」が有効であることが判明しました。また，これまで有効とされていた「クロルフェナピル水和剤」や「スピノシン水和剤」などに大幅な感受性低下が認められました。

＜令和４年度＞

有効な薬剤は選抜しましたが，感受性が低下している薬剤が多数あったことを踏まえ，持続的な生産のためには化学農薬に頼らない防除法が必要であると考え，展示ほを設置し「交信かく乱法」による防除効果の検証を実施中です。

普及活動の成果

栽培講習会やCATVなどを通じて，生産者や指導者に対して，シロイチモジヨトウの生態や被害，有効な薬剤および感受性低下している薬剤などの周知を行い，効率的な防除・生産安定につなげることができました。

用語説明	「交信かく乱法」：昆虫のオスとメスの間でコミュニケーションをとるときに用いる「フェロモン」を逆利用し，ほ場に「フェロモン」を充満させることで，オスとメスのコミュニケーションを抑制し，結果的に次世代の個体数を減少させるという防除法です。

今後の発展方向

シロイチモジヨトウに対する有効薬剤の選抜ができましたが，本種の登録農薬は現在認められないことから，メーカー等と協議し登録を推進します。一方で，環境負荷の少ない交信かく乱法などの手法を検討し，持続的で安定した生産支援を行います。

関係者からの声

ほうれんそうを加害するチョウ目害虫の種類が判明し，有効薬剤や効果の低い薬剤がわかったので，無駄な出費が抑えられた。今後も，引き続き有効な防除法について調査研究してほしい。

徳島農業支援センター

連絡先：徳島県徳島市新蔵町１丁目67番地　　tel：088-626-8771